

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和4年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名： 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 熊野灘臨海公園（北牟婁郡紀北町地内）
指定管理者の名称等	紀伊長島レクリエーション都市開発株式会社 代表取締役社長 吉川 勝也 （北牟婁郡紀北町東長島3043番地の4）
指定の期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			植物管理や公園施設の管理を適切に行った。 地域住民のみならず大都市圏からの誘客に向けて県や近隣民間施設との連携など、公園の効用を高める取組を行った。
2 施設の利用状況	B	B			SNSを活用した情報発信や地元観光協会と連携したPR活動を行うとともに、感染症対策を行った上で季節ごとの体験イベントなどを開催し、公園の利用促進に努めた。
3 成果目標及びその実績	B	A			成果目標である年間公園利用者数58万人に対し、646,233人となり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、成果目標を達成した。

※「評価の項目」の 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

県の評価 「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>（指定管理者の評価に対する県の評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「管理業務の実施状況」は、業務仕様書に基づき適切に行っており、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「施設の利用状況」は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で集客が困難な中、感染防止対策を徹底した上でのイベント開催や、Webを活用した情報発信などを行って集客に努めたことから、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「成果目標及びその実績」は、公園利用者数が目標値の111.4%となった。これは、感染防止対策を徹底しながら、利用者が安全・安心に利用できるよう適切な管理業務を行うとともに、自主事業の実施等で公園の利用促進に努めた結果といえることから、県としても指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 <p>（今後の課題又は指定管理者への期待）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者には、利用者の安全確保に向けた施設の適切な維持管理の徹底とともに、プールやキャンプ場の屋外Wi-Fi設備など県が整備した施設を最大限に活用しつつ、隣接する民間宿泊施設等との相乗効果を発揮して、大都市からのレジャー需要の受け皿としての機能の強化を図ることで、公園の利用促進につなげる更なる施策展開を期待する。 ・また、公園利用者数のうち大きな割合を占める「道の駅」利用者を、当公園のその他の地区へ誘導して、公園全体の利用促進を図る方策の展開を期待する。
--------	---

< 指定管理者の評価・報告書（令和4年度分） >

指定管理者の名称：紀伊長島レクリエーション都市開発株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 熊野灘臨海公園事業の実施に関する業務

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した上で、以下のとおりイベントを実施した。

4～10月	まるごと海体験（参加者 205 人）
夏休み期間	縁日（参加者 1,231 人）、ビンゴ大会（参加者 565 人）
12月1日～3月31日	カンカン焼きランチ（利用者 18 人）
12月31日	年越しそばふるまい（利用者 220 人）
12月26日～1月14日	門松（孫太郎オートキャンプ場、道の駅紀伊長島マンボウへの設置）
1月1日～2日	福笑い大会（参加者 32 人）
通年	プリン&アイスクリーム作り体験（参加者 12 人）、 思い出グラス作り体験（参加者 57 人）、 お皿にお絵かき体験（参加者 48 人）

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

植物管理、清掃管理、保守点検及び巡回警備等については、直営又は委託で滞りなく実施した。
トイレ施設の修繕（自動水栓、排水管等）や片上池遊歩道の修繕、遊具修繕、蛍光灯等消耗品取替を実施した。

その他、危険を及ぼす可能性のある樹枝の伐採や剪定、避難路の確認、遊具点検、施設の劣化確認、害虫等の防除、禁止事項の注意喚起等を、来園者の安全管理を最優先に実施した。

③ 県施策への配慮に関する業務

管理業務を実施するにあたっては、以下のとおり県施策への配慮を行った。

- ・ 「人権尊重社会の実現」として、高齢者や障がい者等の雇用に積極的に取り組んだ。
- ・ 「男女共同参画社会の実現」として、作業員の採用にあたっては、能力に応じて性別で区別することなく、雇用機会を創出した。
- ・ 「次世代育成支援の推進」として、子供達の情操育成につながる体験教室を多数開催した。
- ・ 「地震防災対策」として、公園内3施設（片上管理センター（道の駅）、孫太郎オートキャンプ場、城ノ浜フィットネスホール）において、消防訓練と津波避難誘導訓練を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

熊野灘臨海公園の管理に関する情報公開実施要領に基づき適切に実施した。

なお、令和4年度の開示請求はなかった。

⑤ その他の業務

- ・ 巡視員会議を年6回実施し、公園の維持管理に係る情報共有を行った。
- ・ 県が策定した「県営都市公園の利用に関するガイドライン」に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に行った。

(2) 施設の利用状況

< 目標 > 年間公園利用者数 580,000 人
< 実績 > 年間公園利用者数 646,233 人（前年度： 570,835 人 対比： 113.2%）

（内訳）

城ノ浜地区：	38,631 人	（前年度： 34,406 人 対比： 112.3%）
片上池地区：	556,595 人	（前年度： 491,187 人 対比： 113.3%）
豊浦地区：	14,974 人	（前年度： 14,537 人 対比： 103.0%）
大白地区：	36,033 人	（前年度： 30,705 人 対比： 117.4%）

【行為許可】

団体利用は、紀北町のPR事業の6件であった（公益目的のため無償）。

2 利用料金の収入の実績

- 有料施設の利用に伴う収入
有料施設がないため該当なし
- 行為許可に伴う収入
催しの開催（紀北町） 6件 0円（公益目的であるため、使用料を免除。）

3 管理業務に関する経費の収支状況

（単位：円）

	収入の部		支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	61,952,000	59,782,000	事業費	36,269,050	36,500,247
利用料金収入	0	0	管理費	33,229,114	36,052,907
その他の収入	4,164,731	4,903,133	その他の支出	0	0
合計 (a)	66,116,731	64,685,133	合計 (b)	69,498,164	72,553,154
収支差額 (a)-(b)	▲3,381,433	▲7,868,021			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	159,710円
---------	----------

4 成果目標とその実績

成果目標	年間公園利用者数 580,000人
成果目標に対する実績	年間公園利用者数 646,233人
今後の取組方針	<p>三重県南部に位置する熊野灘臨海公園は、熊野古道やロケーション、美味しい魚や釣り等の魅力のPR等をし、集客交流に努め、地域活性化を図ることが使命と考える。</p> <p>城ノ浜地区においては、県が整備した新プールの開業を受けて、新たな東紀州地域の観光の目玉となるよう、PRや運営面の充実を図っていく。また、引き続き、孫太郎オートキャンプ場においてもスムーズな運営を行うとともに、イベント開催や体験メニューの充実に取り組んでいく。</p> <p>片上池地区においては、紀勢自動車道の延伸と紀北PA（始神テラス）の開業で、来園者数は平成22年度の約110万人をピークに減少傾向にあったが、道の駅でのイベント開催や、バイク利用者へのPRなど、通過交通需要に頼らず当地を目的地として選んでもらえる取組を行った結果、60万人台まで回復してきた。引き続き片上池地区周辺の魅力作りと、他団体との広域連携等を充実させることを目的として設立したマンボウ倶楽部とも連携を密にし、利用者の拡大を図っていく。</p> <p>また、安全管理においては、日常巡回による安全確認の徹底を継続していくとともに、施設の経年劣化などで危険箇所や不具合等にも確実に対応していく。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	植物管理、清掃管理、保守点検及び巡回警備等、すべて滞りなく実施した。
2 施設の利用状況	B	B	新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限等が徐々に緩和されたことを受けて、集客につながるイベントを徐々に再開したほか、アクティビティの充実に努め、集客に努めた。
3 成果目標及びその実績	B	A	年間公園利用者数は、成果目標 580,000 人に対して、646,233 人となり、達成率は 111.4%であった。

※評価の項目「1」の評価：
 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：
 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>●上記評価に至った根拠・理由 維持管理については、適切に植物管理及び施設管理を実施した。 施設の利用状況については、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限等が徐々に緩和されたことを受けてイベントの開催を増やしていったところ、利用者数は前年度よりも増加し、概ねコロナ禍前の水準まで回復した。</p> <p>●残されている課題 高速道路の開通に伴うトンネル効果の影響を受けるなど、構造的な要因で平成 22 年度のピーク時の利用状況まで回復させることは困難ではあるが、通過交通に頼らず、当公園を目的地として訪れていただく方を増やす取組を通じて、より一層の利用者確保に向けたPR活動が必要となる。 また、施設の老朽化も顕著であることから、引き続き適切な維持管理を行う必要がある。</p> <p>●その他 紀北町の観光政策や地域の関係機関との連携を深め、積極的な広報活動を行い、片上池地区へ県外利用者などの新規利用者を開拓していく。 また、城ノ浜地区及び大白地区の施設においても、イベントや体験メニュー等をさらに充実することで集客を図る。 令和 4 年 2 月には、片上池地区「道の駅 紀伊長島マンボウ」の広場に、志摩マリンランドに設置されていたマンボウのモニュメントが寄贈されたランドマークができた。 また、新プールの開業で、家族連れやカップルの来場が増加することが期待されるため、引き続き、現在の公園利用者の顧客満足度を高めるとともに、新規顧客の獲得に向けて多方面への情報発信を積極的に行っていく。</p>
--------	---